

南和広域医療企業団 平成28年度下半期 アクションプラン〔概要〕

アクションプラン

「地域の皆さんへの充実した医療の提供」と「企業団としての安定した経営を継続」するための「あるべき姿を展望した行動計画、

めざす目標

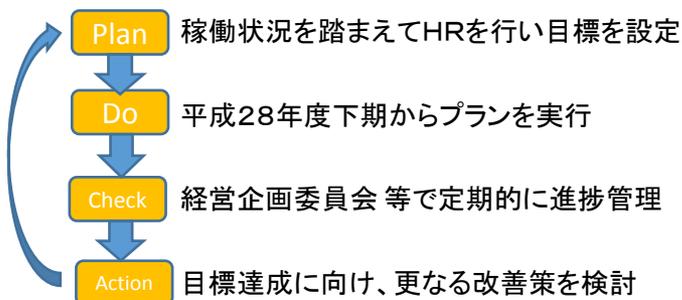
企業団の「基本理念」、「病院理念」等の実現

【基本理念】 南和の医療は、南和で守る

【病院理念】 まごころをこめて、
良質で最適な医療を提供します
～笑顔と感謝にあふれる病院をめざす～

※病院「基本目標」、看護専門学校「教育目標」については、
本編を参照してください

PDCAサイクルで進捗管理



アクションプラン ～取り組みの視点～

1. 専門性を活かした質の高い医療の提供
○診療方針、対象となる患者、主たる診療領域の柱の明確化

<入院>

- ①高いレベルの病床稼働率の維持、在院日数の短縮
- ②入院治療の多い疾病への対応充実
- ③疾病治療、手術件数等の目標設定 など

<外来>

- ①診療科ごとの患者数の目標設定
- ②受診患者の多い疾病への対応充実
- ③積極的な救急搬送患者の受入の継続
- ④院外処方の促進(吉野病院) など

<中央診療部門>

- ①検査機器(エコー装置、検体検査等)を最大限に活用して診療を支援
- ②大型医療機器(CT・MRI等)を最大限に活用して診療を支援
- ③薬剤師による服薬指導の充実
- ④リハビリに係るケースカンファレンスを充実し在宅復帰を支援
- ⑤医療安全意識の向上に向けた院内研修の実施 など

5. 健康増進を図る情報発信の充実

- ①健康フェスティバル2016の開催
(11月20日(日)・会場:南奈良総合医療センター)
- ②地域住民を対象に健康講座等を実施
- ③地域の医療者等を対象にした研修会等の充実
- ④論文発表、学会発表等への積極的な取り組み など

2. 診療科、部門を越えたチーム医療の推進

①センター機能の充実

- 救急センター、消化器病センター
- リウマチ・運動器疾患センター
- 糖尿病センター、腎、尿路疾患センター
- 在宅医療支援センター
- へき地医療支援センター、健診センター

②チーム医療の推進

- 医療安全、感染対策
- 栄養サポートチーム など

3. 地域医療への対応強化

- ①地域の医療機関等との関係強化
- ②へき地診療所の支援、連携
- ③在宅医療、訪問診療の取り組み推進
- ④五條病院開院(平成29年4月)に向けた準備 など

4. 災害拠点病院としての機能強化

- ①DMATメンバーを中心とした災害対応体制の構築
- ②ドクターヘリの運航開始の準備 など

6. 地域医療を守る人材の育成

- ①看護専門学校での看護人材の育成
- ②スタッフ教育の充実によるスキルアップ
 - ・救急診療教育、救急隊への教育
 - ・看護記録作成マニュアル等の作成
 - ・キャリア開発、接遇研修
 - ・医学生、初期臨床研修医、地域医療研修医、専攻医の受入 など

1. 南奈良総合医療センター 診療科

①内科

- ・内科系疾患の患者に幅広く対応
- ・多くの疾患を抱えた患者を一般内科として診療

②総合内科

- ・専門診療科が特定しにくい複数の臓器にまたがる疾患に対応
- ・在宅やへき地を基盤とした患者へのシームレスな診療
- ・物忘れ外来(週1回午後)の診療体制の構築
- ・災害医療への対応に備える

③糖尿病内科

- ・糖尿病専門医を中心に血糖コントロールが困難な症例や合併症の進んだ症例の治療
- ・糖尿病教育入院、糖尿病性腎症に対する慢性腎臓病(CKD)教育入院、フットケア外来の実施

④内分泌・代謝内科

- ・脳下垂体、甲状腺、副腎、性腺などの内分泌臓器の異常が原因の病気全般の診断、治療
- ・泌尿器科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、産婦人科等との診療連携

⑤感染症内科

- ・感染症に関する最新情報を病院の内外に提供
- ・感染対策チームの活動充実
- ・合併症のある結核患者を想定した入院環境の整備

⑥循環器内科

- ・狭心症、心筋梗塞など動脈硬化症疾患の迅速な治療
- ・遠隔モニタリング機能付きペースメーカー植え込み実施

⑦呼吸器内科

- ・肺炎、肺がんなど専門性の高い呼吸器疾患に対応
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)、睡眠時無呼吸症候群の治療

⑧消化器内科

- ・緊急の処置が必要な消化器病患者の受入
- ・内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)関連手技、消化管腫瘍に対する粘膜下層剥離術(ESD)、ポリープ切除術の増加

⑨神経内科

- ・神経難病(パーキンソン病、ALS等)患者のレスパイト入院、長期脳波モニタリング(てんかん)の診断目的入院を実施

⑩小児科

- ・呼吸器疾患(肺炎、喘息)、消化器疾患(胃腸炎)、てんかんなど急性、慢性の小児疾患に対応
- ・安定した小児救急の維持に貢献

⑪精神科

- ・うつ病、不安障害、統合失調症、不眠症、認知症の外来診療を実施

⑫外科(消化器・総合)

- ・日本における標準治療、最新治療の提供、腹腔鏡などによる低侵襲な手術の実施
- ・胃、大腸、肝臓、膵臓、胆道、乳のがん治療、
- ・鼠径ヘルニア、肛門疾患、消化管穿孔、虫垂炎、腸閉塞の治療

⑬脳神経外科

- ・脳血管障害、脳の腫瘍性病変、頭蓋内血腫、脊椎脊髄神経疾患、慢性神経疾患の手術治療
- ・回復期リハビリテーション病棟を活用し、急性期の在院日数を短縮
- ・脳ドックの実施、定期的な画像検査の啓蒙
- ・チーム医療により、血栓溶解療法(t-PA)、カテーテルによる血管内手術(IVR)、など脳卒中に対する急性期血行再建を継続実施

⑭整形外科

- ・整形外科領域の幅広い疾患に対して専門的医療を提供
- ・変形性関節症、骨折、靭帯損傷、半月板損傷、関節リウマチ、腰椎間板ヘルニア、骨軟部腫瘍の治療
- ・在院日数の短縮を図り、病床確保、入院単価の向上をめざす

⑮救急科

- ・継続して南和地域を中心とした救急車受入要請を応受
- ・重症度により優先順位を決定し、適正な診療を実施
- ・OJTによる救急診療教育の継続

⑯皮膚科

- ・専門的な検査、治療が必要な皮膚疾患患者の受入
- ・アレルギー性皮膚疾患、皮膚感染症、膠原病の皮膚症状、難治性皮膚創傷(褥瘡など)の診療

⑰泌尿器科

- ・専門診療科としての診断、治療
- ・経尿道的膀胱悪性手術(TUB-BT)、経尿道的前立腺手術(TUL)の件数増加
- ・経尿路的レーザー尿路結石除去術、体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)の導入による患者数増

⑱眼科

- ・専門診療科としての診断、治療
- ・白内障、緑内障、網膜剥離の治療
- ・水晶体再建術(白内障)の実施

診療科の続き

⑱耳鼻咽喉科

- ・専門診療科としての診断、治療
- ・鼻閉に対する低侵襲手術の実施
- ・頭頸部領域をはじめ、アレルギー、めまい、顔面麻痺、いびき、声とことば、飲み込み異常の治療
- ・慢性糸球体腎炎(IgA腎症)に対する扁桃腺手術患者の受入

⑳産婦人科

- ・子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮内膜症などの良性疾患や、婦人科特有の感染症、更年期障害の治療
- ・骨盤臓器脱(性器脱)に対する専門的な治療
- ・子宮がん検診の実施
- ・腹腔鏡手術、腔式手術などの低侵襲治療
- ・奈良医大産科と連携した妊婦健診の推進

㉑歯科口腔外科

- ・一般歯科医院で対応困難な疾患の治療
- ・口腔がん、上顎、下顎、顔面の外傷、骨の疾患、顎関節症などの治療

㉒麻酔科

- ・硬膜下鎮痛法、静脈内鎮痛法を積極的に取り入れた術後疼痛管理の実施
- ・全身麻酔の割合(現状8~9割)を増やし、患者の安全性を確保

㉓病理診断科

- ・よりよい診断の提供
- ・地域がん診療病院の機能強化
- ・術中迅速検査の実施を図り、30分以内報告をめざす
- ・病理解剖の実施

㉔放射線科

- ・CT検査、MRI検査ともに、4~6月実績(CT:1075件、MRI:349件)の5%増をめざす
- ・他診療科との連携を図りながら、低侵襲で安全な治療方法として、画像下治療(IVR)を行う

2. 南奈良総合医療センター 医療センター

①救急センター

- ・強い情熱と意欲で、内科系外科系を問わず救急患者に対応
- ・ICT技術を活用し正確な診断、治療を行う体制の構築
- ・ドクターヘリ導入の準備を進める

②消化器病センター

- ・消化器内科、消化器外科、放射線科で適時に症例検討会を実施
- ・最先端の手術室、内視鏡、画像診断、IVRを有機的に組み合わせて消化器疾患を診断、治療

③リウマチ・運動器疾患センター

- ・整形外科疾患とリウマチ性疾患の総合的な診療、リハビリテーションを含めた運動器疾患全般の治療
- ・併存疾患の管理、合併症の予防など細やかなケアの実施

④糖尿病センター

- ・多職種で構成する糖尿病チームで、糖尿病合併症(腎症、網膜症、神経障害、心臓脳血管疾患、足病変、歯周病)のトータルケアを実施

⑤腎・尿路疾患センター

- ・腎不全の予防から人工透析までの総合診療の実施
- ・がんを中心とした泌尿器科領域、合併症を有する腎不全患者の診療

⑥在宅医療支援センター

- ・住み慣れた自宅で自分らしく療養生活を送れるようにサポートを充実
- ・地域における医療福祉との連携

⑦へき地医療支援センター

- ・へき地においても、あたたかい医療、質の高い医療を提供
- ・へき地医療を支えるシステムの維持、発展に努力

⑧健診センター

- ・がん、生活習慣病などの早期発見
- ・生活習慣改善のアフターケアを医師、看護師、薬剤師、管理栄養士がチームとしての的確な管理指導

3. 南奈良総合医療センター 部門

①看護部

- [理念]地域の人々に信頼される責任と思いやりのある看護を提供します
- ・看護専門外来(フットケア外来など)等の件数増加
 - ・医療安全を第1として現状の稼働状況を維持
 - ・看護師の質向上、救急看護の充実、安全文化の醸成

②薬剤部

- [理念]患者さまのために何ができるかを常に考え、寄り添い、行動できる薬剤師になります
- ・薬剤管理指導業務の充実、病棟薬剤業務実施によるDPC機能評価係数加算の取得
 - ・後発医薬品の採用促進、採用医薬品の見直し

③臨床検査部

- ・24時間365日、専門性の高い良質な臨床検査の提供
- ・正確で迅速な検査結果報告
- ・他職種と連携を図り医療支援
- ・検査業務の安全性・正確性の向上
- ・検査の質的向上を図り高い専門性を維持
- ・患者目線で心の通った接遇・マナーの実践
- ・効率的で透明な検査室運営

④放射線部

- ・地域の皆様に質の高い検査・治療を安心して受けていただく
- ・予約枠の調整を行い検査効率を向上し、緊急検査にも迅速に対応
- ・大型機器の共同利用を促進し、地域の診療所医師からの検査紹介患者を増加

⑤リハビリテーション部

- ・発症早期よりリハビリテーションを開始し生活能力の低下を予防
- ・入院中に低下した生活能力の改善を早期からめざす
- ・地域連携を重視し社会復帰を支援
- ・高次脳機能障害に対してもアプローチ
- ・急性期治療が終了した後、必要に応じて回復期リハビリテーション病棟でリハビリテーションを提供

⑥医療技術センター

- ・紹介患者の入院治療、結核症例の隔離透析病床の運用
- ・医療スタッフに対して、安全かつ有効的な人工呼吸器管理を実践するための技術提供
- ・歯科衛生士の専門性を活かして、NST活動、摂食嚥下における口腔内評価に貢献、糖尿病患者の口腔衛生指導を担当
- ・視能訓練士の技術を活かし、健診センターでの視能検査業務を担うなどチーム医療に貢献

⑦栄養部

- ・病態に応じた栄養療法の実施し、治療効果を高める
- ・早期に栄養指導やNST介入の必要性の判断を行う
- ・安心・安全な患者給食の提供を行うとともに患者満足度を高める

⑧地域医療連携室

- ・地域の医療機関との交流や病診連携、医科歯科連携研修会等の企画により連携を推進
- ・在宅医療支援センターの活動を推進
- ・南奈良総合医療センター、吉野病院、五條病院の効率的でシームレスな連携の構築

⑨医療安全推進室

- ・ヒヤリハット情報の収集分析により、医療事故の予防、再発防止に努める
- ・医療相談室への意見や要望の分析し、対応策を検討
- ・医療安全の推進に関わる広報、研修の企画、運営

⑩感染対策室

- ・各種感染症の発止状況把握と対策の検討、実施
- ・感染対策マニュアルの作成、改訂
- ・院内ラウンドによる院内感染対策実施状況の確認、是正
- ・職員への感染対策教育

⑪教育研修センター

- ・医師・看護師・看護学生だけでなく、薬剤師、検査技師、放射線技師、理学療法士などの専門職は勿論、事務職も含めた全スタッフが、研修し生涯学び続けることのできる職場をめざす
- ・メディカル・スキルアップ室を整備し、Off the jobにおいてはICLSをはじめとするシミュレーション教育を積極的に展開し、全職員がBLSを実践

⑫栄養サポートチーム (NST)

- ・急性期から慢性期まで、患者の病態に応じた栄養療法を実施し治療効果を高める
- ・早期介入により予後の改善、入院期間の短縮に貢献する
- ・褥瘡・摂食嚥下チームと連携を取り治療効果を上げる
- ・定期に勉強会を行い院内教育に努める

5. 吉野病院 診療科

①内科

- ・内科では多くの疾患を抱えた患者を総合的に一般内科として診療
- ・南奈良総合医療センターからの転院依頼を積極的に受入れることで病床稼働率80%以上をめざす
- ・患者待ち時間短縮のため、内科3診(予約外・時間外)設置を検討

②整形外科

- ・外来では、骨折、腰痛、膝関節痛、骨粗鬆症等の保存的治療(手術以外の治療全般)、軽症(入院を要しない程度)の外傷に対応
- ・地域包括ケア病床(15床)の施設基準取得し、うち5床程度は整形外科疾患患者の入院を想定

6. 吉野病院 部門

①看護部

- 〔理念〕
地域の人々に信頼される責任と思いやりのある看護
- ・病床稼働率の向上(一般病棟80%、医療療養病床90%)
- ・訪問診療(同行)、訪問看護1人あたり4件/日を目指
- ・感染対策、医療安全の推進
- ・学習と成長の視点
- ・看護スタッフがサポートし合える業務体制の検討や病棟業務の役割分担と業務改善

②薬剤部 (企業団一体運営)

- ・後発医薬品の採用促進、採用医薬品の見直し
- ・薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務実施に向けた検討
- ・院外処方箋の発行促進

③臨床検査部

- ・南奈良総合医療センターへの検体搬送数を増加し試薬費を削減
- ・検査報告時間の短縮
- ・技師のスキルアップ
- ・医療事故(神経損傷・転倒)防止

④放射線部 (企業団一体運営)

- ・一般撮影、CT検査の撮影時間短縮と件数増加
- ・16列マルチスライスCT装置導入による診療収入増加と検査時間短縮、患者の被曝低減、診断能向上

⑤リハビリテーション部 (企業団一体運営)

- ・地域包括ケア病床の新規施設基準取得
- ・6月からSTによる摂食訓練開始

7. 看護専門学校

○南奈良看護専門学校

〔教育理念〕

- ①奈良県南和地域をはじめ広く地域社会に暮らす人々の、急性期から療養期医療・在宅医療・へき地医療を支えることができる質の高い看護職者を育成
 - ②生命の尊重と人間の尊厳を基盤とした豊かな人間性を養い、専門的知識・基本的看護技術を身につけ、地域社会に暮らす人々の保健・医療・福祉の向上に貢献し、人々に信頼される専門職業人を育成
- ・看護師国家試験合格率100%
 - ・入学志願者の増加
 - ・県内就職率90%以上

8. 五條病院開院に向けた準備

○五條病院

- ・大規模な改修工事を経て、平成29年4月にリニューアルオープン
- ・外来診療は、内科・整形外科の2科診療体制
- ・入院診療は、経営的な視点から、1病棟(45床)で開院し、患者の状況を見極めたうえで、2病棟目の開院を行うこととする
- ・開院時に運用する1病棟は、「地域包括ケア病棟」を優先する
- ・建物や機器などハード面の整備と併せて、開院に向けた人材の確保、運用・システム構築などソフト面の準備を進める

患者数・診療収入等の目標

アクションプラン 患者数・診療収入等の目標

○入院診療

南奈良総合医療センター

診療科名	平成28年4月～8月の平均実績			平成28年10月からの目標			1月あたり 収入増加額 (単位:千円)
	1日平均 入院患者数 (単位:人)	診療単価 (単位:円)	月額 診療収入 (単位:千円)	1日平均 入院患者数 (単位:人)	診療単価 (単位:円)	月額 診療収入 (単位:千円)	
1 内科	11.6	39,830	13,861	12.0	40,000	14,400	539
2 総合内科	20.5	39,928	24,556	26.6	40,000	31,920	7,364
3 糖尿病内科	6.8	36,371	7,420	7.6	37,000	8,436	1,016
4 内分泌代謝内科	0.2	34,096	205	0.6	34,000	612	407
5 感染症内科	7.0	42,666	8,960	7.0	43,000	9,030	70
6 循環器内科	5.0	42,666	6,400	6.0	50,000	9,000	2,600
7 呼吸器内科	8.0	41,398	9,936	11.7	42,000	14,742	4,806
8 消化器内科	19.2	42,653	24,568	22.2	45,000	29,970	5,402
9 神経内科	5.6	38,716	6,504	5.6	39,000	6,552	48
10 小児科	3.7	44,618	4,953	5.0	45,000	6,750	1,797
11 精神科	-	-	-	-	-	-	-
12 外科	9.4	66,167	18,659	15.0	60,000	27,000	8,341
13 脳神経外科	10.9	63,983	20,922	15.0	64,000	28,800	7,878
14 整形外科	41.7	44,136	55,214	42.0	45,000	56,700	1,486
15 リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-
16 救急科	5.6	94,239	15,832	6.0	90,000	16,200	368
17 皮膚科	0.5	30,747	461	0.5	30,000	450	△ 11
18 泌尿器科	3.1	64,462	5,995	5.0	65,000	9,750	3,755
19 眼科	0.9	99,291	2,681	1.0	99,000	2,970	289
20 耳鼻咽喉科	1.0	46,232	1,387	1.5	50,000	2,250	863
21 産婦人科	0.6	60,155	1,083	1.0	60,000	1,800	717
22 歯科口腔外科	-	-	-	-	-	-	-
23 麻酔科	-	-	-	-	-	-	-
24 放射線科	-	-	-	-	-	-	-
25 病理診断科	-	-	-	-	-	-	-
合 計	161.3	47,447	229,596	191.3	48,324	277,332	47,736

吉野病院

診療科名	平成28年4月～8月の平均実績			平成28年10月からの目標			1月あたり 収入増加額 (単位:千円)
	1日平均 入院患者数 (単位:人)	診療単価 (単位:円)	月額 診療収入 (単位:千円)	1日平均 入院患者数 (単位:人)	診療単価 (単位:円)	月額 診療収入 (単位:千円)	
1 内科	49.2	20,411	30,127	76.8	21,000	48,384	18,257
2 整形外科	3.4	22,361	2,281	10.0	23,000	6,900	4,619
合 計	52.6	20,537	32,407	86.8	21,230	55,284	22,877

【記載に係る注意事項(入院)】

- 「月額 診療収入」は、月の開院日数を、「30日」として計算していますので、実績と異なる場合があります。

○外来診療

南奈良総合医療センター

診療科名	平成28年4月～8月の平均実績			平成28年10月からの目標			1月あたり 収入増加額 (単位:千円)
	1日平均 外来患者数 (単位:人)	診療単価 (単位:円)	月額 診療収入 (単位:千円)	1日平均 外来患者数 (単位:人)	診療単価 (単位:円)	月額 診療収入 (単位:千円)	
1 内科	30.7	7,020	4,310	35.0	10,000	7,000	2,690
2 総合内科	24.8	11,521	5,714	25.0	11,000	5,500	△ 214
3 糖尿病内科	30.3	11,544	6,996	31.5	12,000	7,560	564
4 内分泌代謝内科	4.8	16,038	1,540	6.0	18,000	2,160	620
5 感染症内科	2.6	4,891	254	3.0	5,000	300	46
6 循環器内科	8.2	9,474	1,554	10.0	10,000	2,000	446
7 呼吸器内科	6.3	15,342	1,933	8.0	15,000	2,400	467
8 消化器内科	29.3	13,644	7,995	30.0	14,000	8,400	405
9 神経内科	3.9	8,722	680	8.0	10,000	1,600	920
10 小児科	36.2	4,956	3,588	45.0	5,000	4,500	912
11 精神科	11.9	6,484	1,543	13.0	6,500	1,690	147
12 外科	15.8	17,057	5,390	18.0	17,000	6,120	730
13 脳神経外科	19.4	8,639	3,352	20.0	9,000	3,600	248
14 整形外科	72.0	7,383	10,632	72.0	7,400	10,656	24
15 リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-
16 救急科	41.7	21,109	17,605	40.0	21,000	16,800	△ 805
17 皮膚科	34.0	3,775	2,567	34.0	3,800	2,584	17
18 泌尿器科	18.8	16,553	6,224	29.1	17,000	9,894	3,670
19 眼科	35.6	7,920	5,639	36.0	7,000	5,040	△ 599
20 耳鼻咽喉科	25.3	5,394	2,729	30.0	5,500	3,300	571
21 産婦人科	6.5	9,057	1,177	10.0	9,000	1,800	623
22 歯科口腔外科	6.8	6,804	925	12.0	7,000	1,680	755
23 麻酔科	-	-	-	-	-	-	-
24 放射線科	-	-	-	-	-	-	-
25 病理診断科	-	-	-	-	-	-	-
合 計	464.9	9,932	92,349	515.6	10,142	104,584	12,235

吉野病院

診療科名	平成28年4月～8月の平均実績			平成28年10月からの目標			1月あたり 収入増加額 (単位:千円)
	1日平均 外来患者数 (単位:人)	診療単価 (単位:円)	月額 診療収入 (単位:千円)	1日平均 外来患者数 (単位:人)	診療単価 (単位:円)	月額 診療収入 (単位:千円)	
1 内科	72.2	17,936	25,900	80.0	19,000	30,400	4,500
2 整形外科	30.7	9,191	5,643	31.0	9,200	5,704	61
合 計	102.9	15,327	31,543	111.0	16,263	36,104	4,561

【記載に係る注意事項(外来)】

- 「1日平均外来患者数」は、一律に週あたりの診療日数を「5日」と仮定し、月ごとの外来患者数(実績)を基数に算出しています。
- 「月額 診療収入」は、月の外来診療日数を、「20日」として計算していますので、実績と異なる場合があります。